

FOCUS

追いかける。大学生。

神戸女学院大・3年

向井沙紀さん

きのくにフレンズ

白浜、熊野古道、高野山…… 観光名所があふれる和歌山県で、1983年から観光PR活動を県内外で行なってきたきのくにフレンズ。今年は3人の女子学生が就任し、来年3月まで和歌山の魅力を発信すべく各地を飛び回る。今回はそのうちの一人、向井沙紀さん(神女院大・3年)にFOCUSした。

きのくにフレンズへの志願を決めたのは今年2月。母親との話から、新メンバーが募集されることを知った。1983年度に誕生したきのくにフレンズ。全国の観光キャンペーンスタッフの草分け的存在で、和歌山県の観光において今や欠かせない存在だ。海外留学を考えていたことで迷いもあったが、最後は「今しかできない」と思い応募、選考会に臨んだ。応募



者37人に対して枠は3人だったが、2度の面接をクリアして見事合格。「驚きのあまり真っ先に母親に電話をしました」と、当時のことを振り返る。和歌山県中部の御坊市出身。生まれも育ちも和歌山と、生粋の紀州っ子だ。幼いころから自然の中で育ち、「ちょっとのケガなら泣きません」と自慢げに笑う。海が広がる和歌山出身だけに、趣

和歌山の魅力 私が伝える！

味は海釣り。容貌からは意外な趣味に、大学の友だちに話すときびくりにされるという。しかし、そんな事などお構いなし。今でも故郷に帰ると海に向かう。

高校卒業後初めて和歌山を出て、兵庫県の神戸女学院大に入学した。和歌山を離れることでの寂しさはあまりなかったというが、故郷に対する愛はまったく衰えるところを知らない。所属する文学部英文学科の授業では、故郷和歌山を紹介する英語のプレゼンを披露した。「こんなところあるんや」「行ってみたいわ」と、周りの反応がうれしかったと話す。現在も頻繁に和歌山の美家に帰り、そのペースや月に2回。記者が「とても頻繁に帰っているんですね」と言ってみると、少し照れ笑いを見せた。

一方、周りの人に和歌山の観光地が、思っていたほど知られていなかったことに戸惑いを隠せなかった。「せっかくいい観光地がたくさんあるのに、もったいないな」と、もどかしさを感じたという。きのくにフレンズに志願した、大きな要因だった。

そんな彼女に和歌山の魅力を聞いてみた。「何と云っても自然がいっぱいであること。山や海岸線の景色がどこ

までも広がっていて、ドライブが好きな私にはたまりません」。

昨年、台風の影響で大きな被害を受けた和歌山県。観光客も大幅に落ち込んだという。「観光立国和歌山」の再起を図るべく、他のメンバーとともに全国各地を駆けまわる。6月には横浜や名古屋でPR活動を行う予定だ。

観光PRの看板塔で、和歌山大好きな彼女から最後に一言「和歌山といえはなんといい、きれいな景色いっぱい和歌山にみなさん是非ともお越しください！」。

(記者 土井和樹、石崎紗織)

委嘱式でのきのくにフレンズと和歌山県知事。一番右が向井さん(提供 和歌山県観光連盟)



UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです